

融合プロジェクト

－異教科融合・協働－

濱本 恵康(音楽文化教育学講座)

要約

教科教育の現実的問題について、各教科の枠組みを越えて多面的、複眼的に探求することを通して、多角的な課題設定および問題解決能力を涵養することを目的とする授業。

I 授業の目標・概要

本授業においては、10の各専修の院生が4つの複合的な知の領域に分かれ、各教科の枠組みを越えて多面的、複眼的に教材開発を行うことを通して、教科教育の現実的問題について協働的に探求し、多角的な課題設定および問題解決能力を涵養することを目標とする。実際の活動においては、4つのグループが主体的かつ協力的に参加し、中等学校レベルで活用できる総合的教材開発実践演習を行う。

II 授業の進め方

1. 第1週目

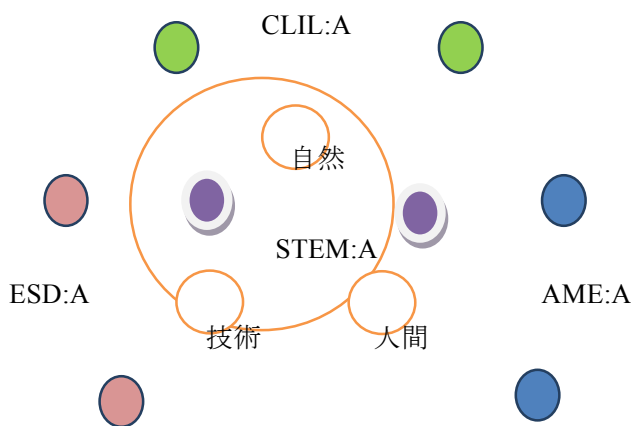
各週を担当する下記のように、4つの教員グループ(STEM, ESD, CLIL, AME)が、第6週から13週までの授業で必要なリソース、あるいはサンプルなどを提供することで、特にグループによる話し合いのまとめ役となる主担当となるグループに、資料や情報源を提供してそれをまた自分たちで発展させて行くように伝える。また、どのように自分たちの発表を評価すれば良いかを伝える。

複合的な知の領域を4つに設定(下線はとりまとめ担当講座)

- 1) STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics 自然科学系)
自然システム・技術情報・人間生活
- 2) ESD (Education for Sustainable Development 社会科学系)
社会認識・自然システム・健康スポーツ
- 3) CLIL (Content and Language Integrated Learning 人文学系)
英語・数学・社会認識
- 4) AME (Art, Music and Expression 芸術表現系)
国語・音楽・造形

- ① 第1週目に、STEM. ESD. CLIL. AME をそれぞれ A.B.C の3つのグループに分ける。(STEM- A.B.C, ESD- A.B.C, CLIL- A.B.C, AME- A.B.C)
- ② 第6～7週は、STEM- A.B.C が主導で、それぞれ ESD- A.B.C CLIL- A.B.C AME- A.B.C とグループになって展開していく。
- ③ 第8～9週は、ESD- A.B.C が主導で、それぞれ CLIL- A.B.C AME- A.B.C STEM- A.B.C とグループになって展開していく。
- ④ 以下、第10～11週は CLIL- A.B.C 主導、第12～13週は、AME- A.B.C 主導で展開していく。

(例：STEM-A グループの場合)



2. 第2週から第5週までの進め方

各週を担当する4つの教員グループが、第6週から第13週までの授業で必要なリソース、あるいはサンプルなどを提供することで、特にグループによる話し合いのまとめ役となる主担当となるグループに、資料や情報源を提供してそれをまた自分たちで発展させて行くように伝える。また、どのように自分たちの発表を評価すれば良いかを伝える。

3. 第6週～第13週の進め方

- ・第1週のオリエンテーションの際に、予めそれぞれのグループを3つに分けておく。その場合、3つのグループは複数の領域の学生で構成する。主担当となるグループが、その3つに分かれて、主導的な立場で他の3グループとの話し合いを取りまとめていく。
- ・学生には、この授業期間中各人にPCを持参させる。特に第1週目は、主担当グループ主導の元、提供されたリソースやサンプルなど（バイリンガルの資料など）を参考の上、しっかりと材料を見つけ出させる。これまでに提供された、「メディア（新聞紙上、コマーシャル）」なども重要である。第2週目には、主担当グループの主導において内容をより深めていき、第14週～第15週の発表に向けて研究を深めていく。

4. 第 14 週, 第 15 週の進め方

3 コースのグループによる, それぞれの専門分野を生かした共同の教材開発を目的としたプレゼンテーションを行う。その際, それぞれのグループが 15 分の持ち時間で発表と Q&A を行う。

・ STEM×3 (15 分×3), ESD×3 (15 分×3), 時間があれば教員の総評。

・ CLIL×3 (15 分×3), AME×3 (15 分×3), 時間があれば教員の総評。

また発表の方法として, 文書・写真の提供, また, パワーポイントなどを利用して受講者の興味を引く独創的な工夫をする。

Ⅲ 評価の方法

1. 評価は, それぞれの講座において行う。グループ討論・発表などからは, 学生個人の評価が難しいために比較的ゆるやかな評価で行う。
2. 学生各人に「自己申告シート」に記入させる方法 (5 段階評価: TA が集計) と教員による評価との総合評価で行う。
3. 3 段階の評価で行う。